

第16号 バージャー病NEWS

2024年3月●日発行
発行：認定NPO法人バージャー病研究所
〒302-0118
茨城県守谷市立沢980-1
TEL 0297-47-9955
FAX 0297-45-4541
http://keiyu.or.jp/vascularcenter
E-mail:vascular@keiyu.or.jp
発行者：岩井武尚
編集：小笠原祐子

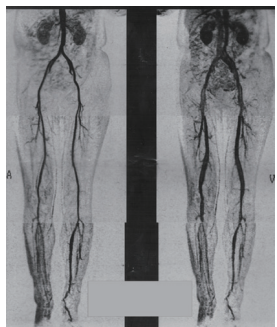
バージャー病として誤診治療して いたら決して治ることはありません。

がちりちりとした診断基準で守られたらと思われるバージャー病が正しく診断されずに、にせの「バージャー病」患者として取り扱われた症例があります。それらの人々をこの一年ほどの診療から振り返りかえってみましよう。残念ながらかなりの多いのです。

まずAMさん。現在80歳近い彼女は40年以上前にバージャー病と診断されました。有名大病院での診断でありました。生来タバコも酒のみません。男性が圧倒的に多いこの難病なのにまさって女性です。なぜかというところまわりにタバコを吸う人がいたという受動喫煙のみで診断基準に入りました。(当時は受動喫煙でも喫煙に入れていました)また、直接穿刺の動脈撮影で膝下の動脈が閉塞しているということで診断基準に入りました。そして動脈硬化の誘因となる糖尿病、高脂血症、高血圧がないという理由でも診断基準に入りました。また証拠はないのですが手足が冷たいということも客観的証拠からバージャー病に仕立て上げられました。多分喫煙していない珍しい例として40年間不動の「バージャー病」として本人も病院の医師も認めていたと思われます。診断時すでに膈腹に切開をおいて行う交感神経節切除術を受けていました。さらに診断を後押ししたのはおじいちゃんもバージャー病であったということでしょうか。

バージャー病はこうして誤診される 一症例から学ぶ

歯は診断当時の事は判りませんが、現在歯科病院で診断してもらうと喪失感がある。診断時すでに膈腹に切開をおいて行う交感神経節切除術を受けていました。さらに診断を後押ししたのはおじいちゃんもバージャー病であったということでしょうか。



(図1)40年前の直接血管撮影画像
下腿動脈の閉塞が見られる

この説明は紙面左の告知板で解説し

バージャー病診断基準	
1	50歳未満の発症
2	喫煙歴を有する
3	膝高動脈以下の閉塞がある
4	上肢の動脈閉塞がある、 又は遊走性静脈炎の既往がある
5	高血圧症、高脂血症、 糖尿病を合併しない

(表1) バージャー病の診断基準表

血管もあ

の登場です。超音波で見ると血管が細く見えるのか詰まっているのかかわりません。さらに詰まっていると見るとコルクスクリーンのようなくなる。この説明は紙面左の告知板で解説し

この検査は点滴で静脈から造影剤を入れて行うので手足の先は不確かなります。その結果では手足に閉塞があるのではなく、所見でした。たぶん40年前の血管造影も現在のCTによる検査と似たり寄ったりでしたからその所見を参考にしたのかもかもしれません(図1)。そこでエコー(超音波)検査

その次に誤診されるのが多いのが胸郭出口症候群(TOS)です。そのうち血管の症状が強い症例が誤診されるように見えます。

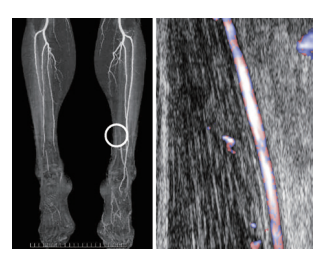
血管もあ

告知板：第十六話 検査方法によって見えるもの・見えないもの

バージャー病患者さんに対して施行される画像検査と言えはCT検査や超音波検査が挙げられます。同じ血管を検査しているのに、どうして2種類の検査が必要なのでしょう。CT検査は血管の走行を立体的に見ることができ、誰が見てもわかりや

すい画像(こ)が狭い・こが詰まっている(こ)を得ることが可能です。しかし、細い血管ではその超音波検査は1.0mm以下の非常に小さいサイズの血管を観察することが可能で、さらにその細い血管の中に血流が流れているかど

うか、リアルタイムで確認することが出来ません。CT検査によって見えない血流を超音波検査で見ることが可能です。超音波検査は1.0mm以下の非常に小さいサイズの血管を観察することが可能で、さらにその細い血管の中に血流が流れているかど



(図4) 足首付近の血流がCTでははっきりしないが、超音波検査では血管を流れる血流が描出されている。

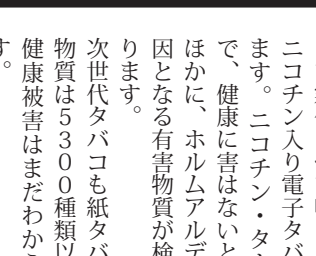
足の血圧検査では下肢の血行障害は証明されません。図に示したような上肢の肘をまげ肩から上腕を水平に保つた位置で検査をします。Wright位といいますが、その状態を後方に展開すると手首で触れたい脈が減少します(図3)。手を水平にしただけで拍動が止まるもの



(図3) Wright テスト

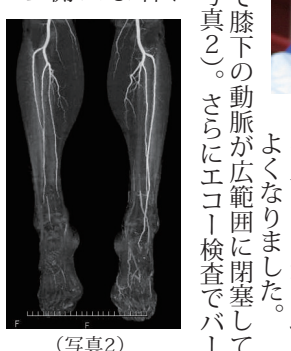
今回の対談は64歳のTKさんです。50代のはじめに、歩くと右足底部が痛くなる間欠性跛行を経験していましたが放置していったそうです。40代に何か足の症状がなかったか聞き出すことはできませんでした。趣味は川釣りです。2時間以上も水中に足を漬けることもあったそうです。

★タバコはいつごろからどのくらい吸っていましたか？
●19歳くらいから20本を45年間吸っていました。
●現在の手足の具合はいかがですか？
●60歳を過ぎてから両手の2、3指と左足の3趾に潰瘍ができて猛烈な痛みがありました。いよいよもう手術しないといっていました(写真1)。近くの病院でバージャー病を疑われないで済んだ。しばらく禁煙しませんでした。潰瘍はカデックをぬりながら様子を見ましたが、段々よくなりました。



(写真1)

★血管撮影で膝下の動脈が広範囲に閉塞していましたが(写真2)。さらにエコー検査でバージャー病に特異的な神経を取りまくコルクスクリーンの側副動脈も見つけられました。
●診断に一步一步近づけて有難うございました。手の動脈にも検査で閉塞があったようですね？
●手の閉塞はエコー検査という方法で証明できました。また左外果(くるぶし)付近に静脈炎の跡のようなものがありました。これも診断上重要です。
●さらに歯の検査はどうだったのでしょうか？
●歯科で歯周病専門医にみていただきましたが出血しやすく清掃不良で重症歯周病といわれました。歯石プラークは100%でした。今では痛みもなくなり手足の温かさも回復してきました。これからどう生きていけばいいのでしょうか？
●数字の上では足趾血圧も測定可能となりこれからは歩いても歩けると言われています。これからは動脈硬化に気をつけて生きていくことになりそうです。治療開始からはじめてシロスタゾールは一生飲んでいくことになると思います。趣味も再開してください。



(写真2)

紙タバコは身体や歯周病に良くない事が知れ渡り、次世代タバコに変えた方も多くあります。では、本当に次世代タバコは、身体にも歯周病にもリスクが減るのでしょうか？
加熱式タバコ(アイコス等)はタバコ葉を燃やさずに加熱してニコチンを含む蒸気を吸い取ります。ニコチン・タールの量は少なくありませんが、発がん性物質など多量の有害成分が含まれおり、身体にもお口にも影響がないわけではありません。
電子タバコは、リキッドと呼ばれる液体を加熱して霧化させて吸うものですが、日本の法律でニコチン入り電子タバコの販売は禁止されています。ニコチン・タールが含まれていないので、健康には害はないと言われていますが、そのほか、ホルムアルデヒドなどアレルギーの原因となる有害物質が検出されたという報告もあります。
次世代タバコも紙タバコと同様に含有する化学物質は5300種類以上といわれているので、健康被害はまだわからないというのが現実です。
ここで改めて喫煙による歯周病への影響について解説します。
喫煙によって吸収されたタバコの有害物質は、血管を収縮し、歯肉の血流量を減少させます。血行循環が悪くなることによって歯肉に十分な酸素が行きわたらなくなると、歯周ポケットの中で歯周病の原因となる細菌が繁殖しやすくなります。歯周病は嫌気性なので、酸素のない状態は居心地がいいのです。
歯周病と戦う白血球の数も減ってしまします。歯周病菌によってダメージを受けた歯肉と骨の修復が働きなくなり、さらに歯周病菌が繁殖することになり悪循環になります。通常は歯肉が腫れると、出血して気づくのですが、ニコチンの強力な血管収縮作用で出血が抑えられ、歯周病初期・中期の段階では自覚症状がなく、気づいた時には重症になっています。
喫煙者の歯周病罹患率は、非喫煙者の3倍と言われています。また、歯を失う確率も非喫煙者の2倍です。
タバコは万病のもと。やはり禁煙していくことが大事なのでしょう！
(この記事は現職の歯科医師より提供を受け、編集しました)

私はいっこうかかぬ 次世代タバコと 歯周病



当法人は皆さまからの寄付金により運営されています。たくさんのご支援、誠にありがとうございます。

■寄附受付口座：
筑波銀行 南守谷支店 普通・1057042
■口座名：
特定非営利活動法人バージャー病研究所
代表 岩井武尚
■事務局連絡先：0297-47-9955
担当/小笠原

